

【会場およびコート】

山形市総合スポーツセンター：A・B・M

山形県体育館：C・D

山形西高校体育館：E・F

山形中央高校体育館：G・H

山形市立商業高校体育館：I・J

日本大学山形高等学校：K・L

【試合時間】

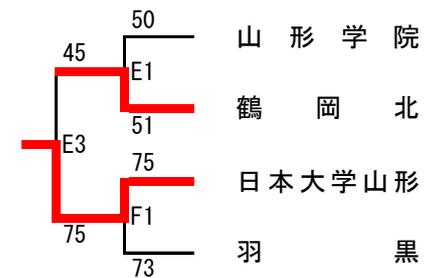
6月5日(金)・6日(土)

	第1試合	第2試合	第3試合	第4試合	第5試合	第6試合
開始時間	9:00	10:30	12:00	13:30	15:00	16:30

6月7日(日)

	女子準決勝	男子準決勝	女子決勝	男子決勝	代表決定1回戦	代表決定2回戦
開始時間	9:00	10:30	12:45	14:15	9:00	12:00

東北大会出場決定戦 6/7(日)



戦評用紙

大会名	平成27年度 第66回山形県高等学校総合体育大会兼全国高等学校体育大会山形県予選会		
-----	---	--	--

日時	2015年6月7日14:15～	区分	山形県バスケットボール協会
----	-----------------	----	---------------

チームA				チームB
羽黒				山形南
57	9	1Q	23	90
	21	2Q	18	
	10	3Q	22	
	17	4Q	27	
		延長		

【戦評】

白のユニフォーム羽黒高校は#4・5・7・10・14、一方青のユニフォーム山形南高校は#4・7・8・17・18のスターティングメンバーで試合開始。白は2-3ゾーンディフェンス、青はオールコートからのマンツーマンディフェンス。試合序盤は両チームともしっかりとしたディフェンスで、なかなか得点が動かない。しかし4分、青が#8の3Pシュートを皮切りに、オールコートのプレッシャーからの速攻、ドライブインからのあわせなどたて続けに得点決め、白2-8青となったところで白が1回目のタイムアウト。しかし、タイムアウト後も白のシュートがなかなか決まらない間に青は着実に点数を重ねていく。1Q終了間際、白も連続で得点を決め追い上げを見せるものの青の勢いが勝ったまま白9-23青で1Q終了。

第2Q、白もディフェンスをオールコートにして反撃を試みる。しかし、青は試合のペースを渡さない。オールコートの厳しいディフェンスからの速攻、アウトサイドからのシュートと連続得点。徐々に点差を広げていく。白はメンバーを変えてリズムを変えようとする。この作戦が功を奏し、#11を中心に連続で得点。4分白17-34青と点差を詰めたところで、青が1回目のタイムアウトを取る。青はメンバーを変え#5投入。ディフェンスも3-2ゾーンに変更する。その後は両チームとも得点を重ねていくが、9分白が速攻から連続で得点を決め、さらに点差を詰めたところで前半終了。白30-41青。

後半、青はメンバーをスタートに戻しディフェンスもマンツーマンにする。白のディフェンスはゾーン。後半最初の得点は青#7ドライブイン。その後も青が厳しいディフェンスから白のミスを誘う。#7と#17のインサイドでのコンビネーションなど連続で得点を重ねる。4分白32-50青と点差が離れたところで、白後半1回目のタイムアウト。7分青が3Pシュートを連続で決め、さらに速攻からも得点を重ねていく。8分白はたまたまに後半2回目のタイムアウト。白38-61青。その後は一進一退の展開になり、白40-63青と23点差で3Q終了。

第4Qも青のオールコートディフェンスのプレッシャーは続いていく。白もオールコートのディフェンスを仕掛け反撃を試みるが、青は巧みなパスワークでそのプレッシャーをかいくぐっていく。白が青のディフェンスを攻めあぐねる間に、青は#7を中心にインサイドでの得点を重ねる。#8や#9のアウトサイドシュートも効果的に決め、点差を広げていく。白はアウトサイドのシュートが単発でしか決まらず、追い上げが叶わなかった。白57-90青。最後までインサイド・アウトサイド共に圧倒した山形南が2年ぶり17回目の優勝を飾った。

戦評者

神位 裕介

戦評用紙

大会名	平成27年度 第66回山形県高等学校総合体育大会兼全国高等学校体育大会山形県予選会		
-----	---	--	--

日時	2015年6月7日 12:45 ~	区分	高体連
----	-------------------	----	-----

チームA				チームB
山形市立商業				鶴岡東
95	28	1Q	9	36
	24	2Q	5	
	25	3Q	10	
	18	4Q	12	
		延長		

【戦評】

決勝は、12年連続24回目の優勝を目指す山形市立商業と、準決勝で激闘を制し、決勝へ勝ち進んだ鶴岡東の対戦となった。白の山形市立商業のスターティングメンバーは、#4・6・7・8・9。青の鶴岡東のスターティングメンバーは、#4・5・6・7・13。

第1Q、両チームともマンツーマンディフェンスでスタートする。ゲームは、青#13のドライブ、白#4のドライブで始まる。その後、白は#4#7#8がドライブやジャンプシュートで効果的に得点を決めていくが、青は白の堅いディフェンス前でなかなか得点ができない。第1Q、28-9白21点リードで終了する。

第2Q、両チームともマンツーマンディフェンスでスタートする。白は第1Q同様#4#7を中心に得点を重ねていく。青も、果敢に攻めるもなかなか得点を奪えない。オフェンスリバウンド、ディフェンスリバウンドとも優位に立った白が52-14の大量リードで前半を終える。

第3Q、ディフェンスは前半と変わらずマンツーマンディフェンス。後半になっても攻撃の手を緩めない白。青のディフェンスを崩し、ノーマークでのシュートチャンスから得点を決めていく。青も#6、#13のシュートでその差を縮めようとするが、なかなか得点できない。77-24の白リードで第3Qが終了する。

第4Q、最後まで両チームマンツーマンディフェンスで始まる。一矢報いたい青は、#5・6・18がメンバーが変わった白を相手に得点を決めていく。白も#13の3ポイントシュートや、#15バスケットカウントなどで得点。最後は、95-36で白の山形市立商業高校が勝利し、インターハイへの切符を手に入れた。

戦評者

佐藤 琢磨